

事業用自動車総合安全プラン2020

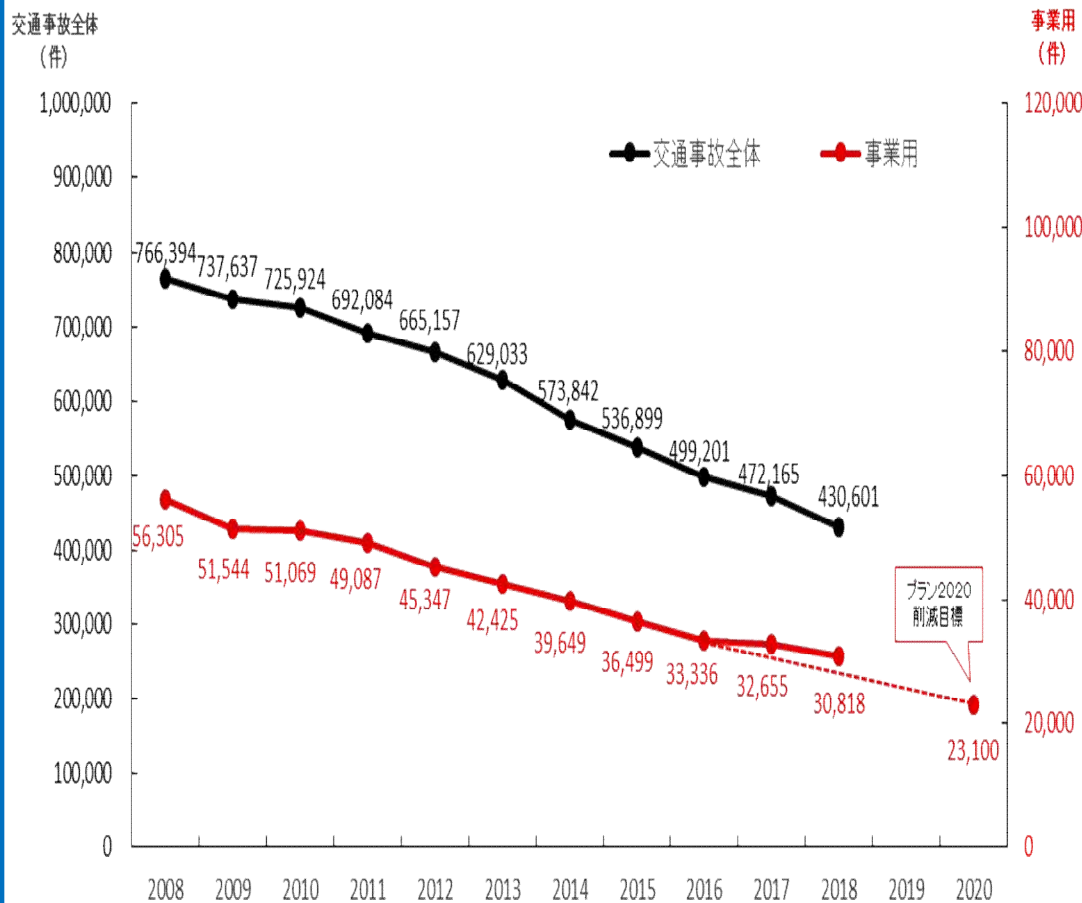
～最近の交通事故発生状況等～



交通事故件数の推移

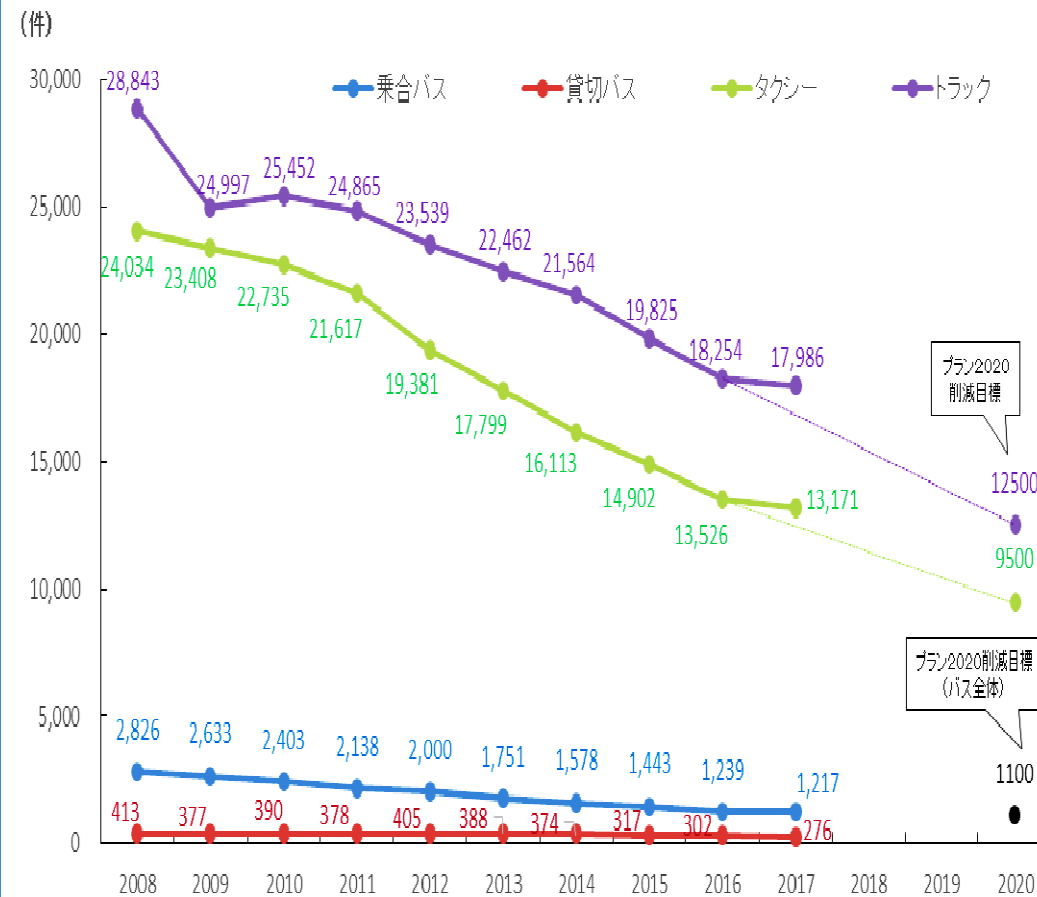
- 2018年中に発生した交通事故全体の件数(人身事故件数)は**430,601**件であり、そのうち、事業用自動車の交通事故件数は**30,818**件となった。(事業用自動車が第一当事者である人身事故件数)
- 各モードとも交通事故件数は減少しているが、減少率の低下が見られる。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故の推移



出典:警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

各モードの交通事故の推移

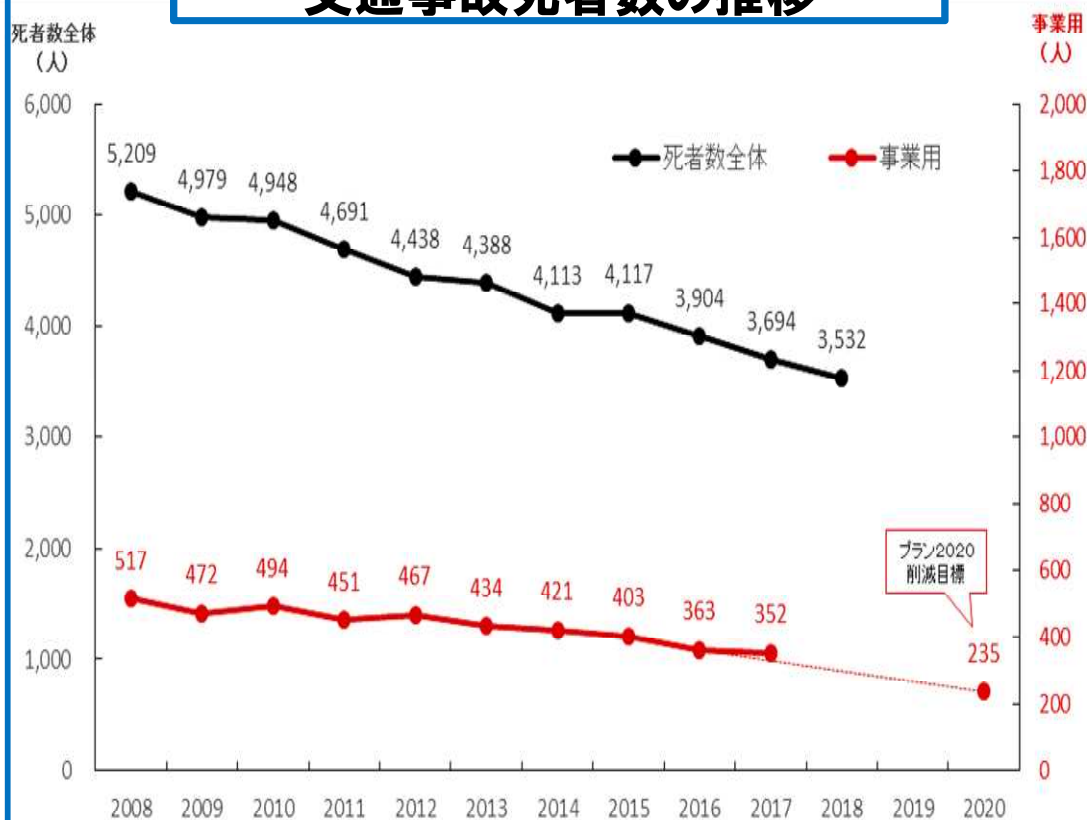


出典:警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

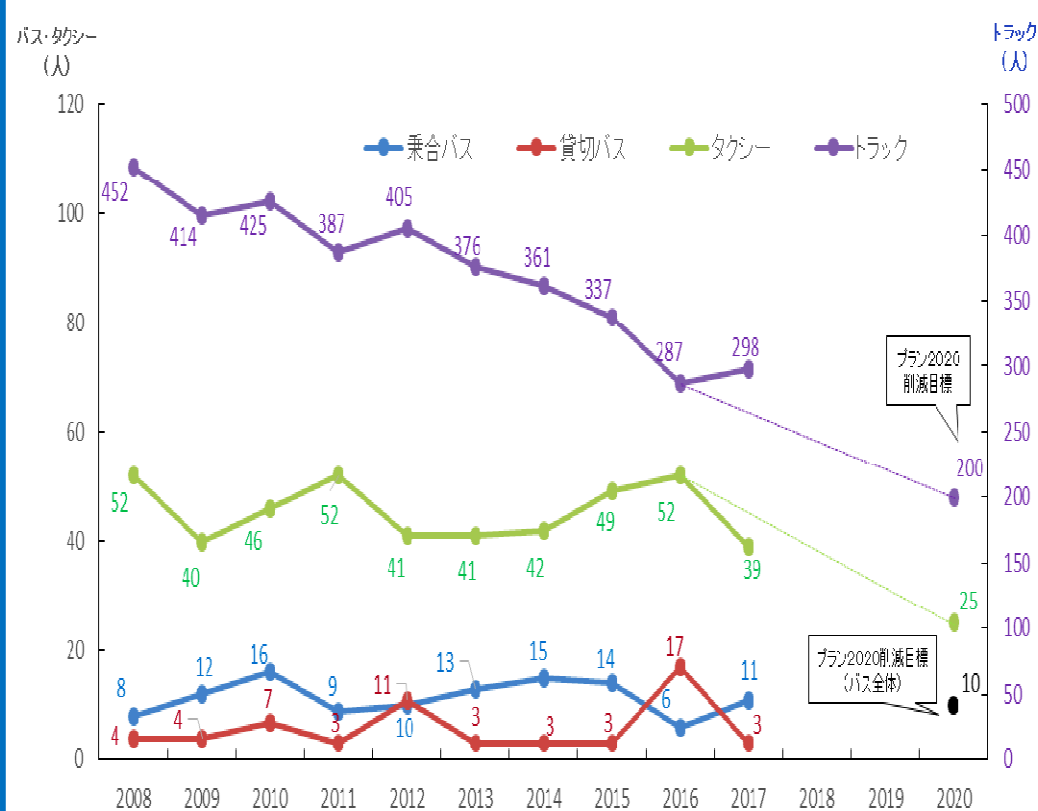
交通事故死者数の推移

- 2017年中に発生した交通事故全体の死者数は**3,694**人であり、そのうち、事業用自動車の交通事故死者数は**352**人となっている。
 - 交通事故全体の死者数、事業用自動車の交通事故死者数とも、**減少傾向で推移しているが、2017年は減少率の低下が見られる。**
 - 2017年の各モードの交通事故死者数は、**タクシーは前年に比べ減少、乗合バス、トラックは増加している。**
- ※貸切バスは2012年、2016年の数値が、それぞれ、関越道高速ツアーバス事故、軽井沢スキーバス事故により大きくなっている。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故死者数の推移



各モードの交通事故死者数の推移



死亡事故件数の推移

第1 当事者別死亡事故件数の推移（各年12月末）

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	前年からの増減	
自動車	乗用	バス	16	15	16	10	14	14	0
		マイクロ	1	2	1	1	1	2	1
		普通乗用	40	41	49	48	39	46	7
		軽乗用	0	1	0	2	0	0	0
		小計	57	59	66	61	54	62	8
	貨物	大型貨物	187	194	185	150	154	143	-11
		中型・準中型・普通貨物	162	136	123	108	117	110	-7
		軽貨物	12	19	25	17	19	13	-6
		小計	361	349	333	275	290	266	-24
		うち、トレーラー	32	35	37	32	29	22	-7
事業用 計		418	408	399	336	344	328	-16	

※ 交通事故統計より抜粋

第1 当事者別死亡事故件数の推移（各年2月末）

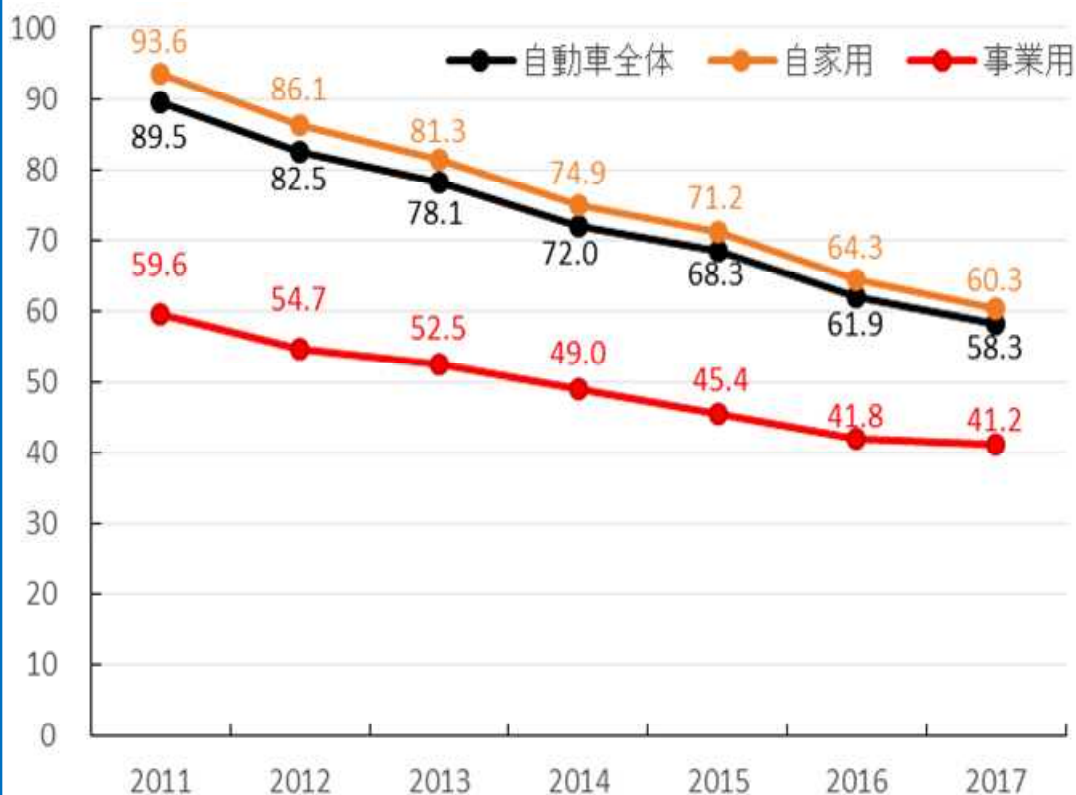
		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	前年からの増減	
自動車	乗用	バス	4	4	2	3	3	1	-2
		マイクロ	0	0	0	0	0	0	0
		普通乗用	5	8	6	5	9	4	-5
		軽乗用	0	0	0	0	0	0	0
		小計	9	12	8	8	12	5	-7
	貨物	大型貨物	36	31	27	27	21	20	-1
		中型・準中型・普通貨物	28	23	19	20	19	15	-4
		軽貨物	3	3	4	2	4	3	-1
		小計	67	57	50	49	44	38	-6
		うち、トレーラー	3	8	6	4	2	2	0
事業用 計		76	69	58	57	56	43	-13	

※ 交通事故統計（2019年2月末）より抜粋

走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移

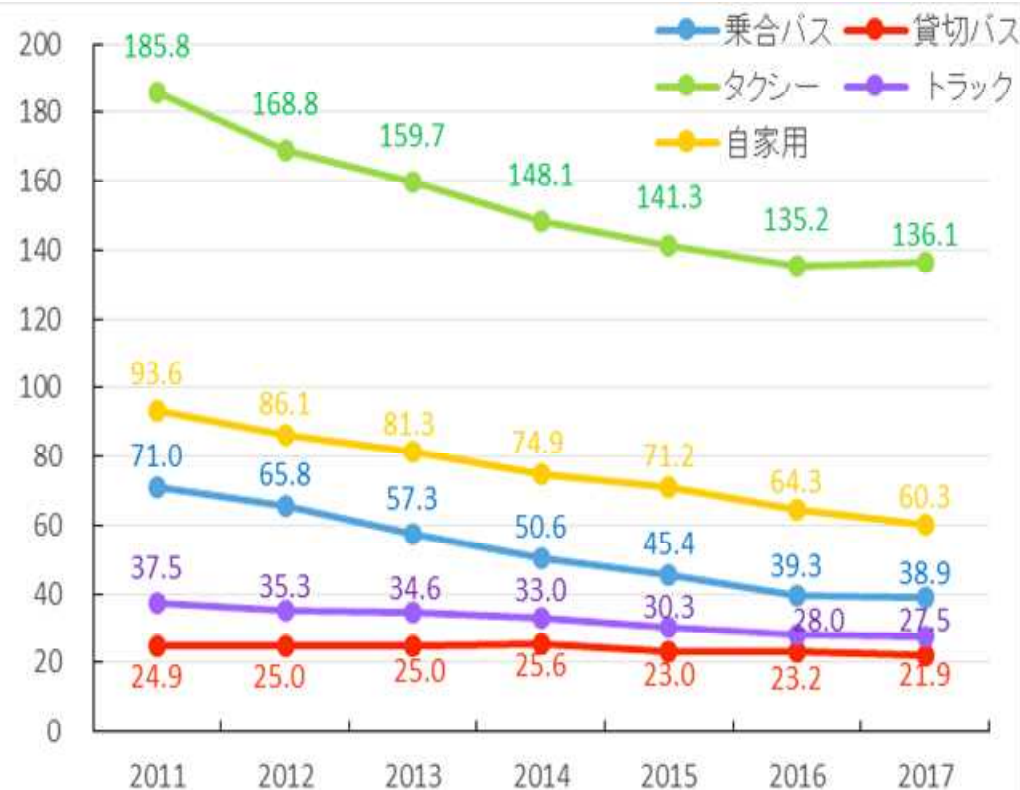
- 走行距離1億キロあたりの交通事故の件数は、事業用が自家用の6~7割の件数となっているものの、事業用の減少率の低下が見られる。
- 各モードごとでは、タクシーの件数が多く、減少傾向で推移しているが、2017年は増加している。乗合バスについても減少傾向で推移しているが、2017年は減少率の低下が見られる。

走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

各モードの走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移

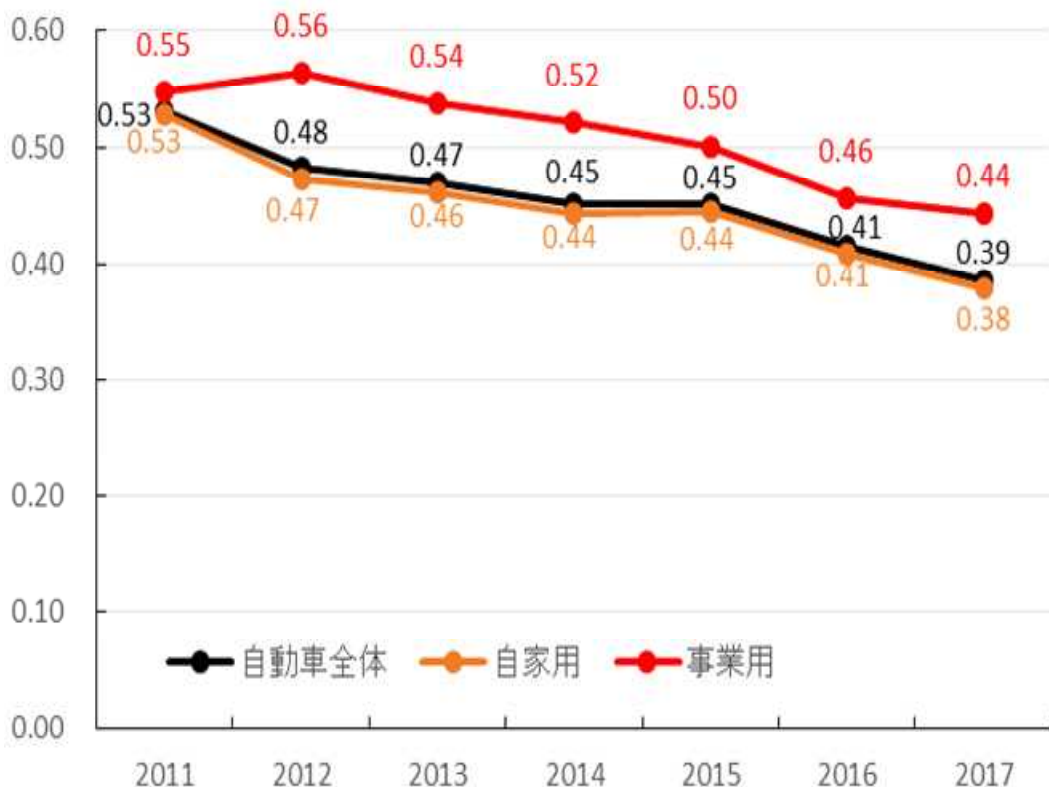


出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移

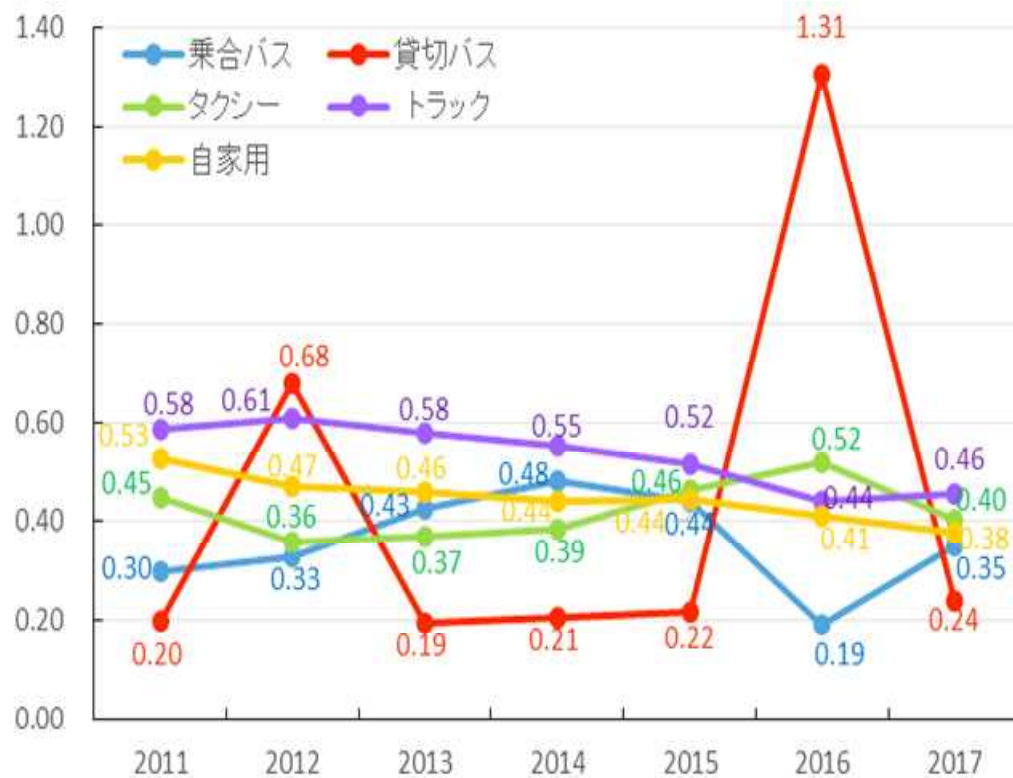
- 走行距離1億キロあたりの交通事故死者数は、事業用が自家用を上回っている。いずれも減少傾向である。
- 各モードごとの2017年の数値は、乗合バスとトラックは前年より増加、タクシーは減少した。貸切バスは2012年、2016年の数値が、それぞれ、関越道高速ツアーバス事故、軽井沢スキーバス事故により大きくなっている。

走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

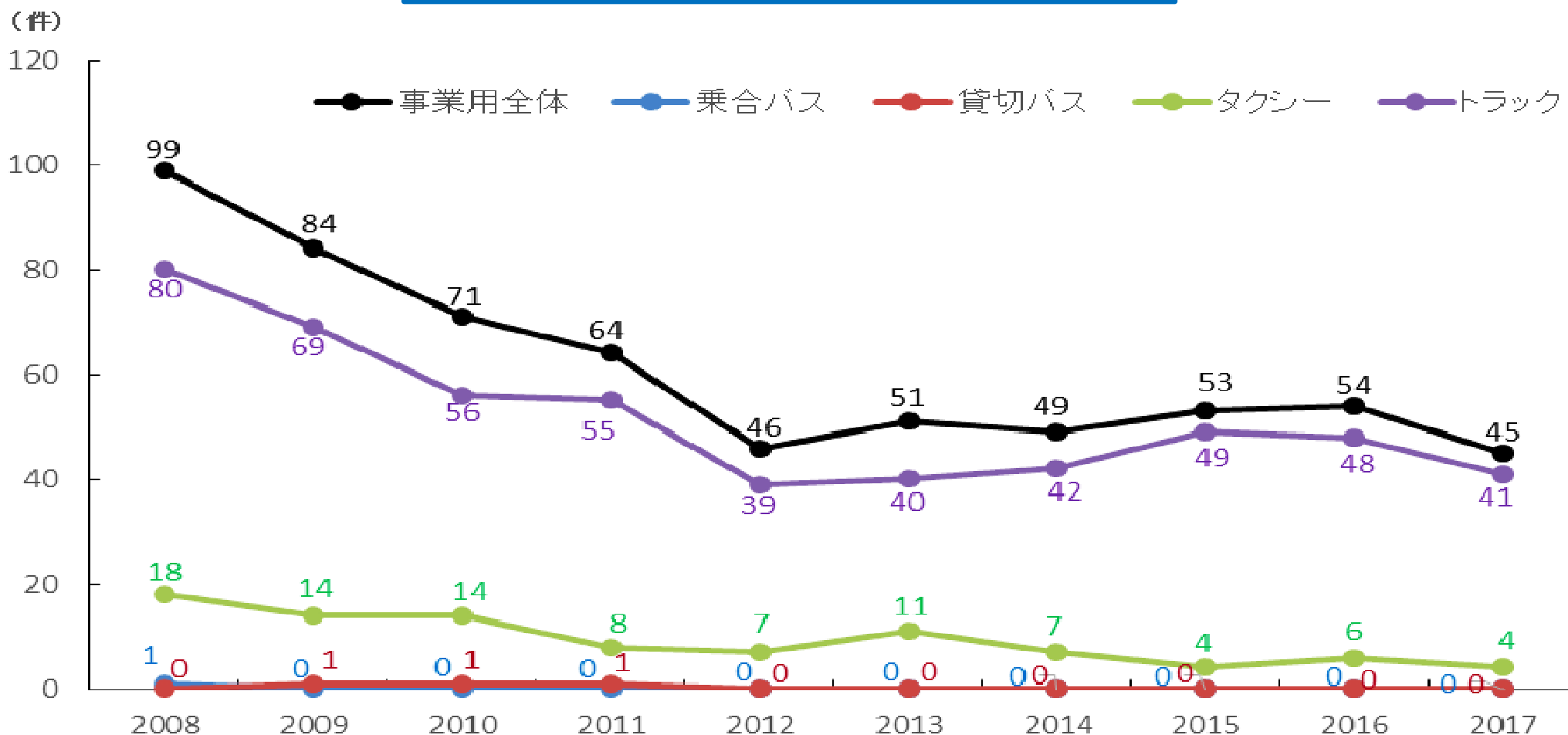
各モードの走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

○飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、2012年までは減少しておりそれ以降は横ばい傾向である。
 ○飲酒運転によるバスの交通事故は2012年以降発生しておらず、タクシー、トラックは前年より減少した。

飲酒運転による事業用自動車の交通事故

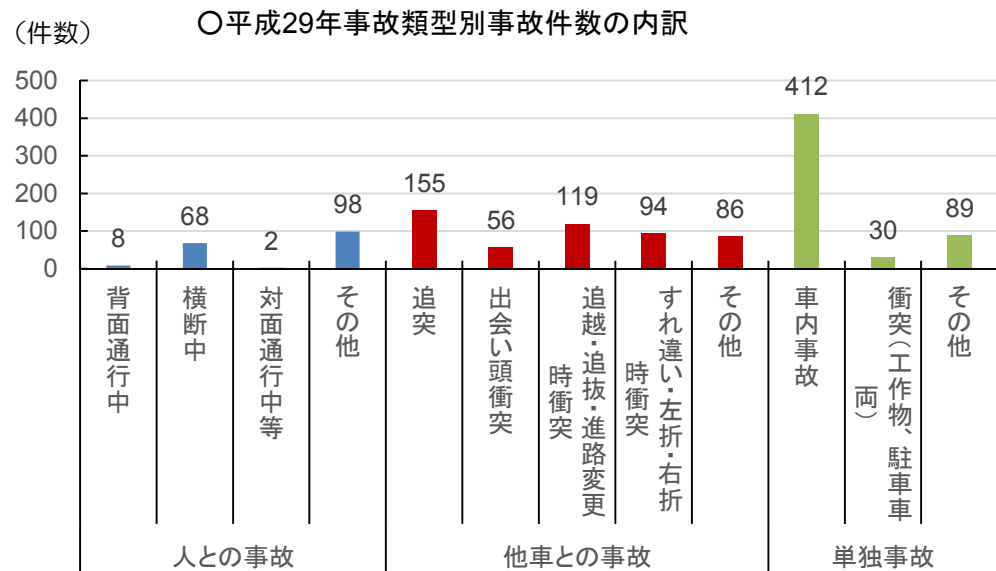
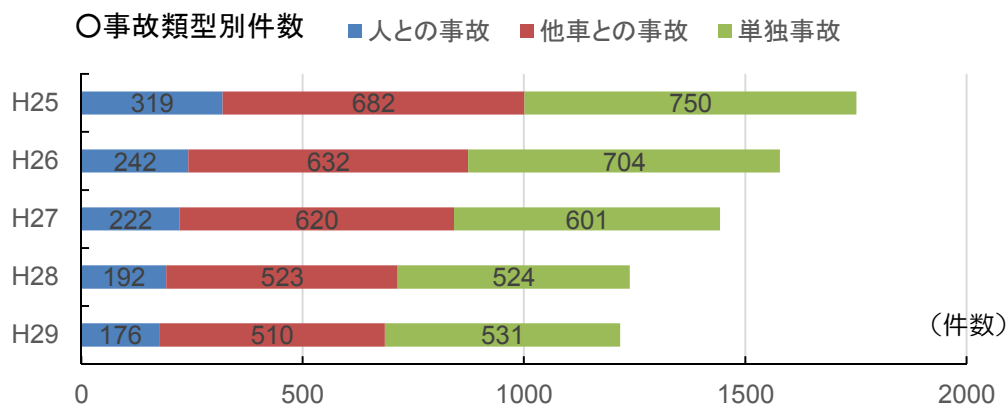


出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

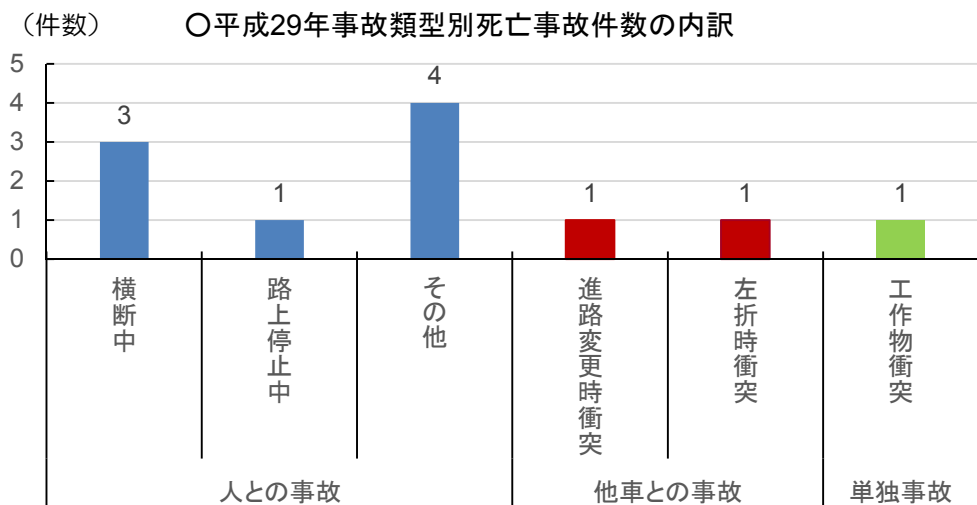
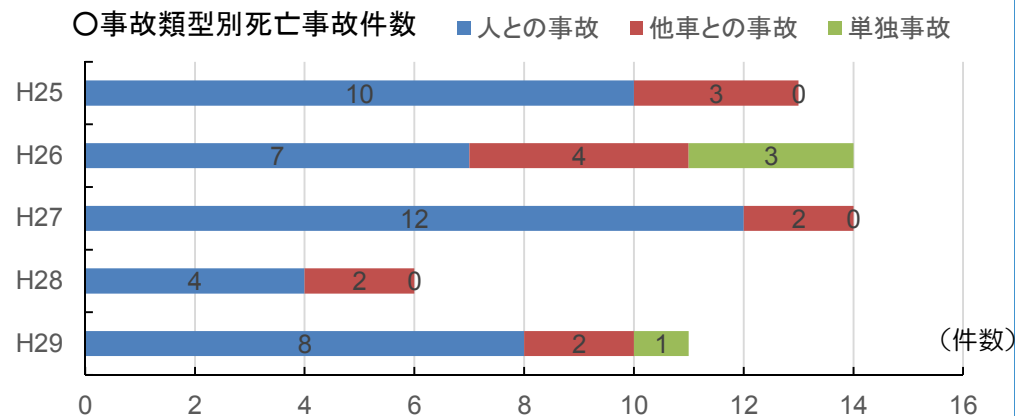
乗合バスの特徴的な事故

- 交通事故は減少しており、単独事故が最多となっている。
- 平成29年は事故類型のうち、単独事故が前年より増加しており、その中でも車内事故が最多で412件発生し、乗合バス事故全体の33.9%を占めている。
- 平成29年の死亡事故では人との事故が8件発生しており、乗合バス事故全体の72.7%を占めている。

乗合バスの事故類型



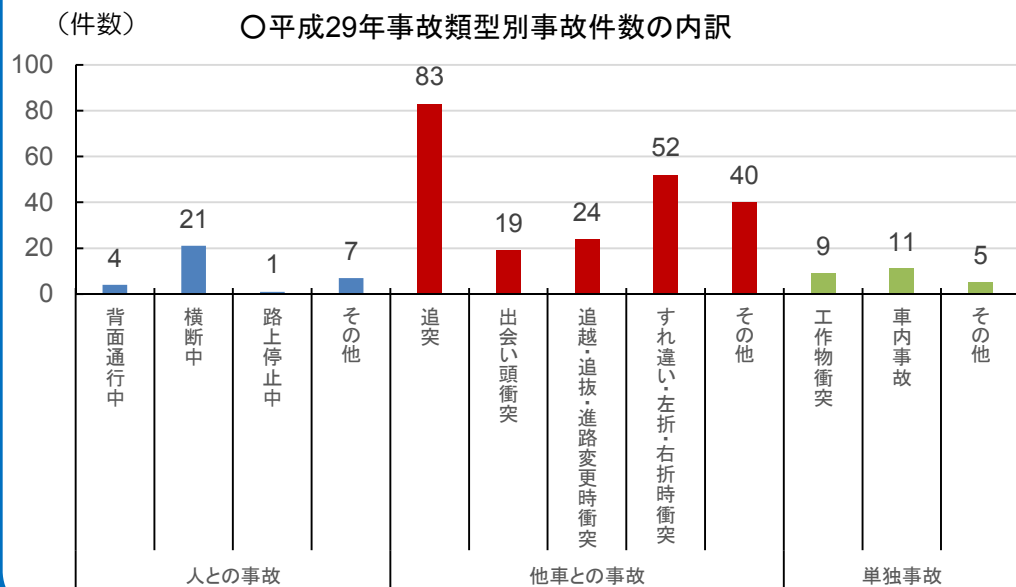
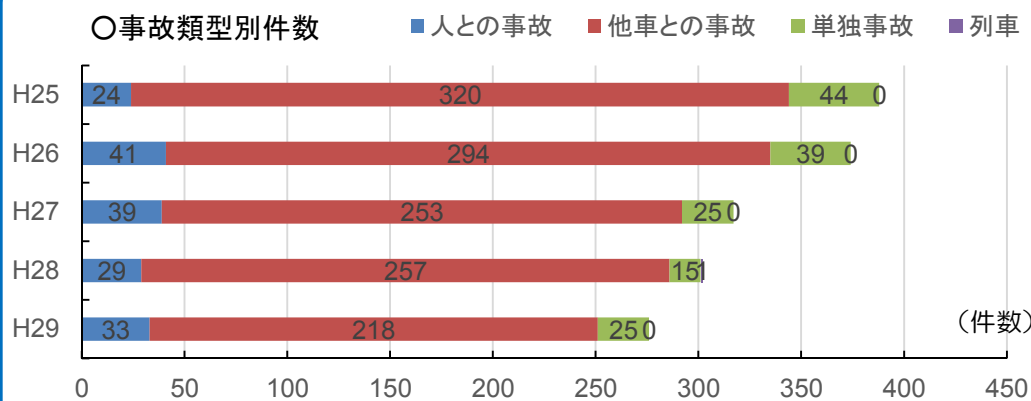
乗合バスの死亡事故類型



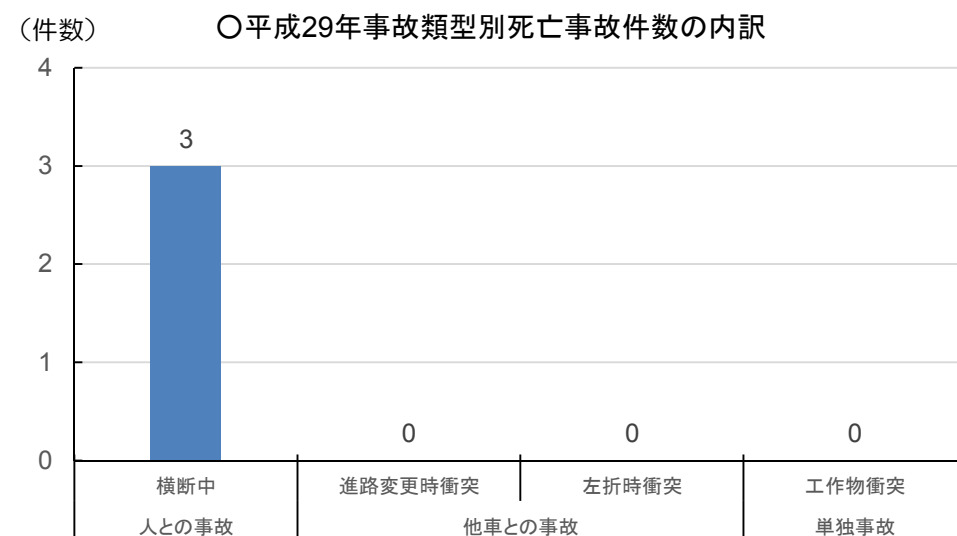
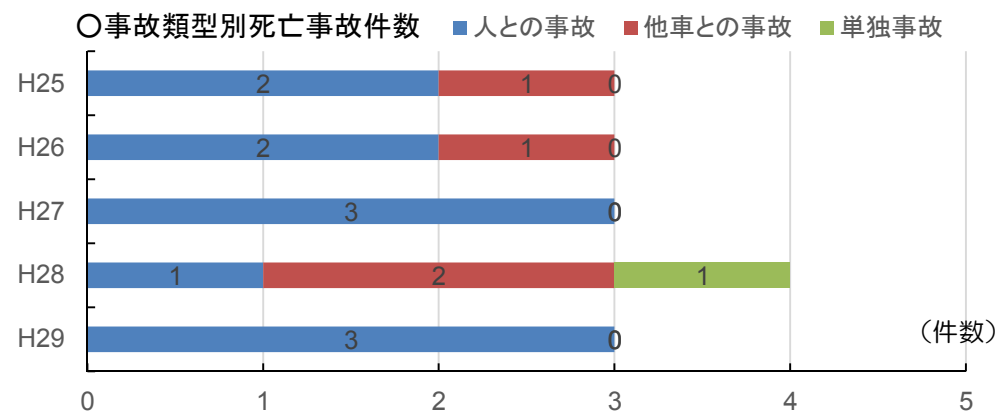
貸切バスの特徴的な事故

- 交通事故は減少しており、他車との事故が最多となっている。
- 平成29年は事故類型のうち、追突事故が最多で83件発生しており、貸切バス事故全体の30.1%を占めている。
- 死亡事故は近年3~4件前後で推移しており、平成29年の死亡事故は全て人との事故であった。

貸切バスの事故類型



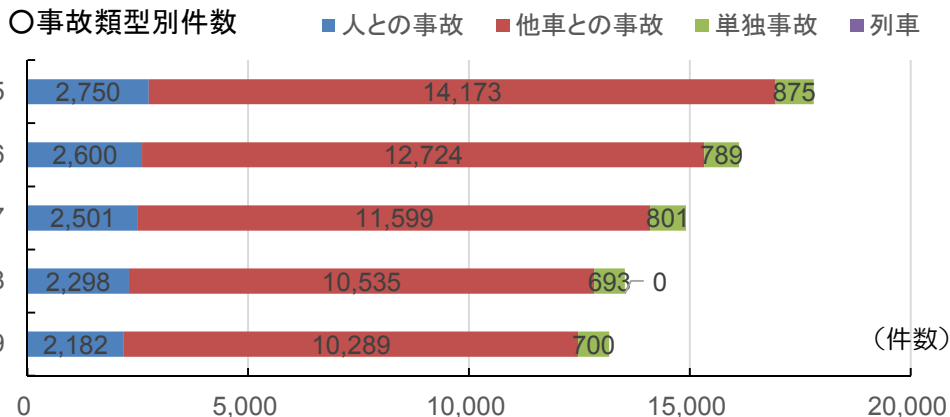
貸切バスの死亡事故類型



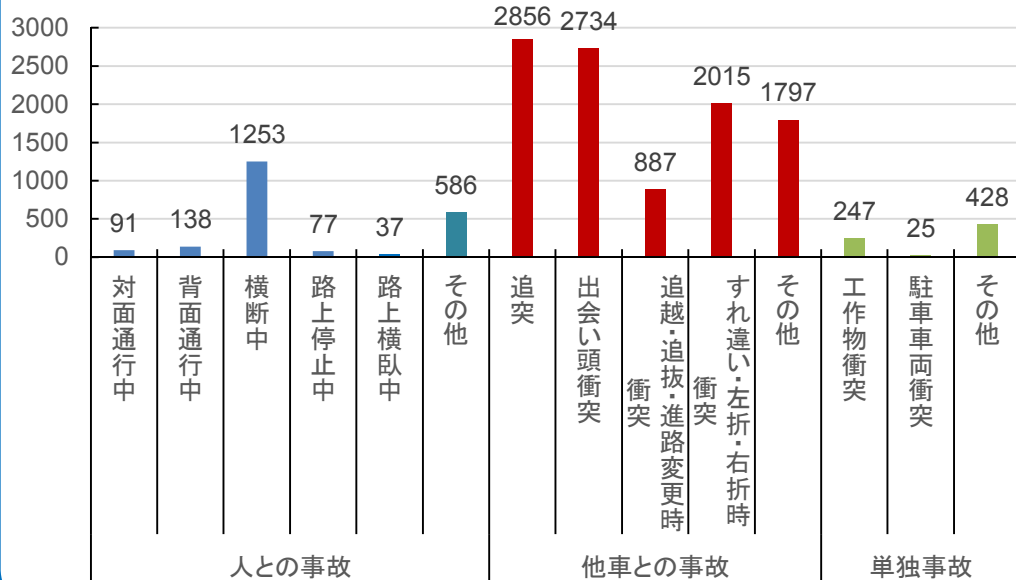
タクシーの特徴的な事故

- 交通事故は減少しており、他車との事故が最多となっている。
- 平成29年は事故類型のうち、追突事故が最多で2,856件発生しており、タクシー事故全体の21.7%を占めている。また、出会い頭衝突事故が2,734件発生しており、タクシー事故全体の20.8%を占めている。
- 平成29年は死亡事故が5年ぶりに減少した。横断中等の人との事故による死亡事故が減少している。

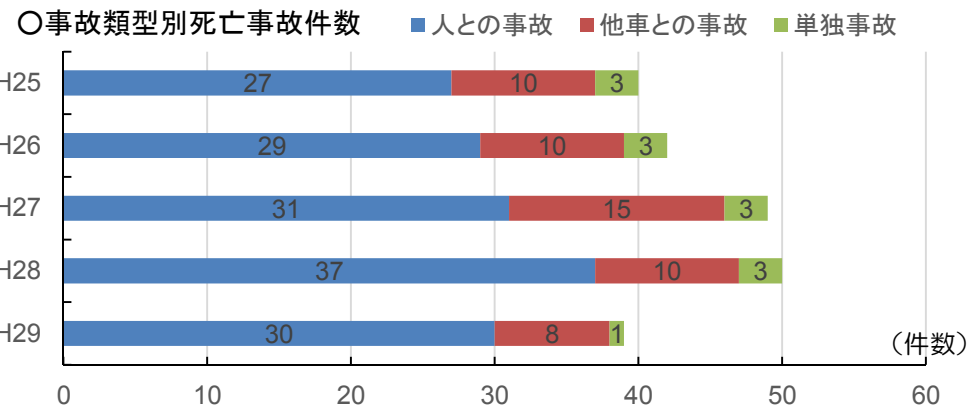
タクシーの事故類型



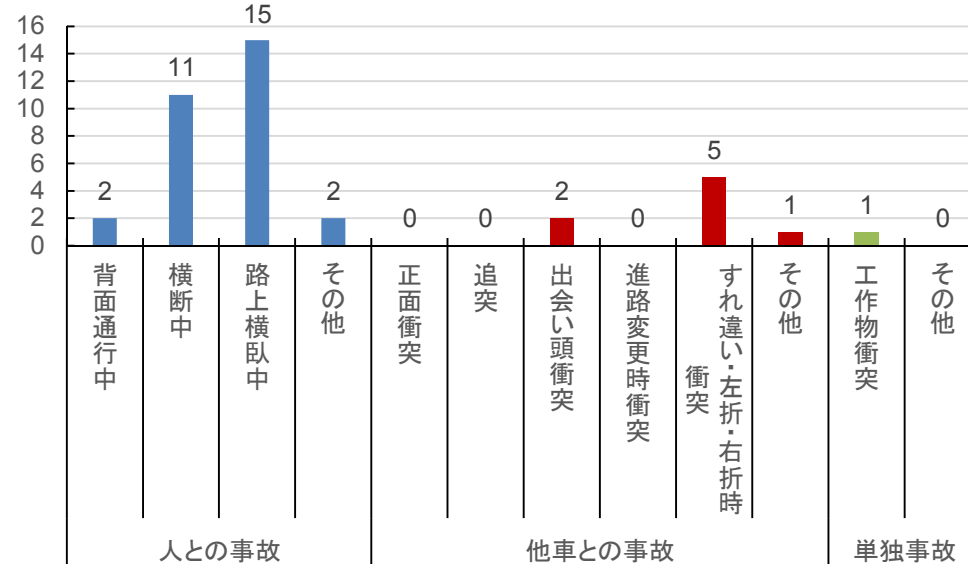
○平成29年事故類型別事故件数の内訳



タクシーの死亡事故類型



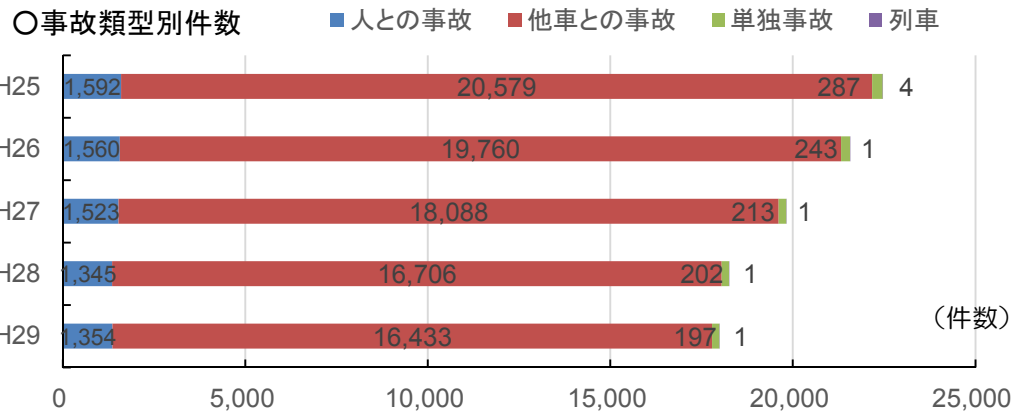
○平成29年事故類型別死亡事故件数の内訳



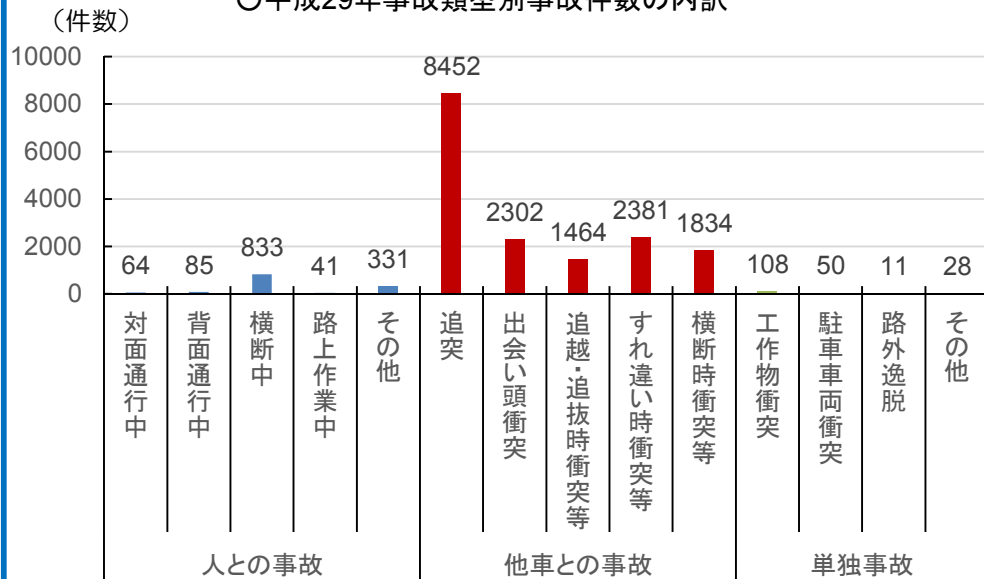
トラックの特徴的な事故

- 交通事故は減少しており、他車との事故が最多となっている。
- 平成29年は事故類型のうち、追突事故が最多で8,452件発生しており、トラック事故全体の47.0%を占めている。
- 平成29年は死亡事故が5年ぶりに増加した。工作物衝突等の単独事故による死亡事故が増加している。

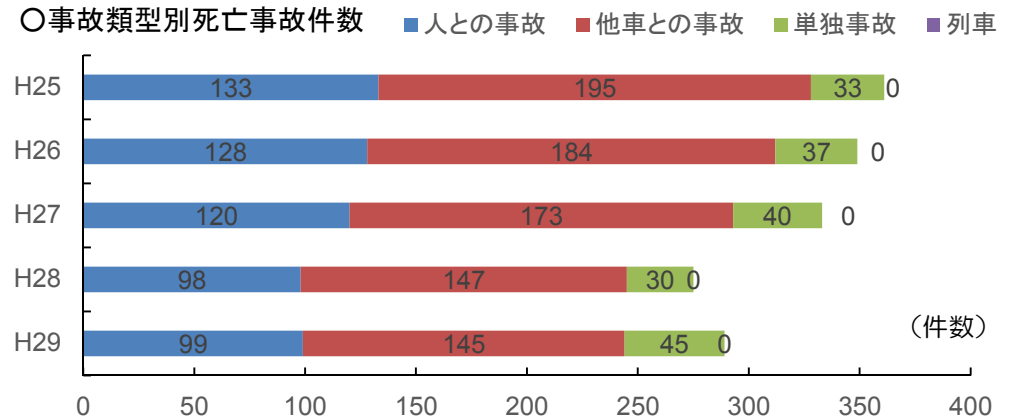
トラックの事故類型



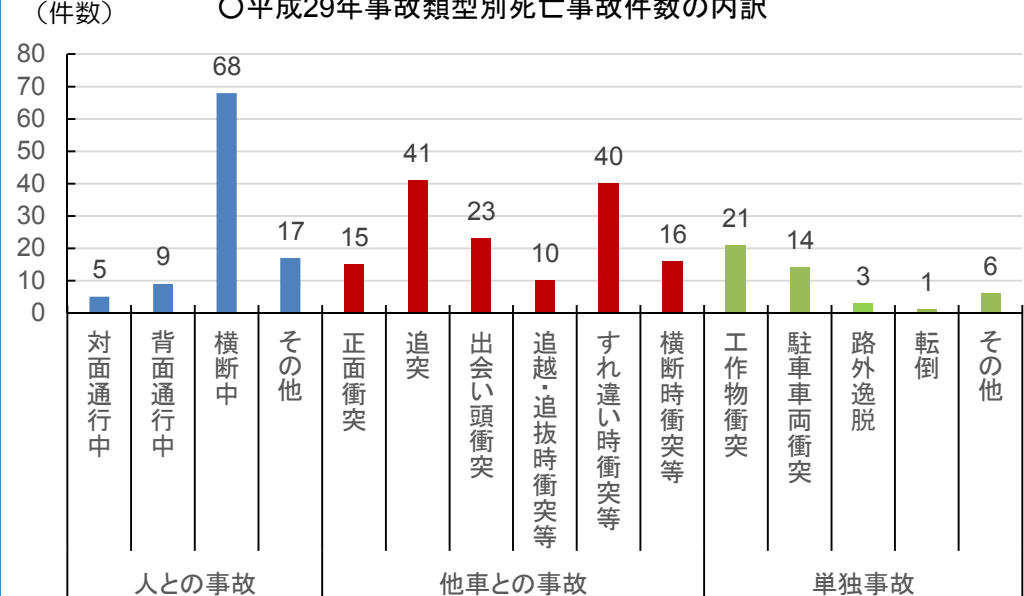
○平成29年事故類型別事故件数の内訳



トラックの死亡事故類型



○平成29年事故類型別死亡事故件数の内訳



事業用自動車の主な死亡・重傷事故の特徴(まとめ)

乗合バス

貸切バス

ハイタク

車両の走行等の態様	車内事故	直進時	直進時	右折時	直進時	直進時	右折時
発生時間帯など	昼間が多い	昼間が多い	昼間が多い	回送時が多い	昼間が多い	空車時が多い 夜間が多い	空車時が多い
相手側	75歳以上の女性	自転車	他の車両等	他の車両等 歩行者	他の車両等	他の車両等 歩行者	他の車両等
相手の状態	—	同進行方向	—	二輪自動車 横断歩道歩行	—	出会い頭 飛び出し	二輪自動車
主な要因等	発進時による事故が多い 対策については「乗合バスの車内事故を防止するための安全対策実施マニュアル」(H23.7)を参考	自転車を追い越す時に接触する事故が多い 自転車が歩道からバス車両の直前で車道に降りてきて追突する事故が多い	慣れている道の運行による気の緩みによる事故、体調不良での運行で事故が発生している	乗客がいないなどの気の緩みによる、安全確認不履行が多い	法定速度以上の事故が多い 歩行者との事故は回送時に起きることが特に多い	空車時に乗客を探すため、前方への注意力不足	右折を急ぎすぎている事故が特に多い

事業用自動車の主な死亡・重傷事故の特徴(まとめ)

小型 トラック

中型 トラック

大型 トラック

車両の走行等の態様	直進時	直進時	右折時	直進時	右折時	左折時
発生時間帯など	昼間が多い	夜間が多い	昼間が多い	—	—	昼間が多い
相手側	全て	他の車両等 歩行者等	他の車両等 歩行者	他の車両等	他の車両等 歩行者	自転車
相手の状態	飛び出しなどの 出会い頭	高速道路等での 追突 飛び出し	二輪自動車 横断歩道歩行	高速道路等での 追突	二輪自動車 横断方向歩行	巻き込み
主な要因等	一時不停止や前方不注意による事故が多い	夜間の法定速度超過が多い	対向車のスピード誤認 対向車線に注意が行き過ぎて歩行者への注意不足	停止車両はないだろうとか、漫然運転による事故が多い	対向車のスピード誤認 対向車線に注意が行き過ぎて歩行者への注意不足	一度だけの確認による巻き込みが多い